アンネのバラ

吉高人権だより

２０２２年　７月号

愛媛県立吉田高等学校　人権委員会発行

その痛みを感じますか

数学科　佐竹　雅範

週に２時間、普通科の１年生に「情報Ⅰ」を教えています。その中で、インターネットに流れている記事を時々紹介しているのですが、４月に「痛みを笑う番組」について取り上げました。これはBPO(放送倫理・番組向上機構)がバラエティ番組の中に痛みを伴うことを笑いの対象とするものがあり、「それを観た青少年の共感性の発達や人間観に望ましくない影響を与える。」と指摘して放送局に改善を求めたものです。みなさんの中には該当の番組を観た人がいるのかもしれませんね。(個人的には人をだますドッキリや罰ゲーム企画は好きではないので私は観てないかも。) BPO は「青少年が番組をまねしていじめに発展する危険性」を心配していて、さらに「この場面を笑うことでいじめの傍観を許すことになるのでは」と意見を述べています。

ところで、最近はいじめの原因の一つになるとして「あだな禁止」の小学校が増えていて、友達の間でも「〇〇さん」と呼び合っているとテレビで放送しているのを観ました。私の小学生時代のあだなは「ケケさん」。理由の１つは多少すね毛が濃かったこと。(これを言われたときは嫌だったなー) もう一つの理由は佐竹の「竹」がカタカナの「ケケ」に見えるからだそう。(これを言われたときはなるほどーと感心 www)。ともかく私の場合は親しみを込めてみんなからケケさんと呼ばれてました。最近の「あだな禁止」の風潮が良いか悪いかは置いておいて、言われて（されて）相手がどう思うか想像する力は大切です。相手が笑っていたからいいというものではないですね。決してその行為が承認されたわけではないですよ。

相手が笑っていることを免罪符にして、一方的に攻撃していないか、よく考えてみましょう。様々な人の苦しみや悲しみを想像する力を、私たちはコロナ禍の間にしっかり身に付けたはずです。その力を、みんなが優しく寄り添う社会の実現につなげましょう！

【人権・同和教育ホームルーム活動】

６月 17 日（金）、人権・同和教育ホームルーム活動が公開授業として行われました。１年生は「人権問題を考えるⅠ」というテーマで、障がい者問題、ＢＬＭ（ブラック・ライヴズ・マター）問題、性的マイノリティーの問題などを取り上げました。中には宇和特別支援学校の高等部のクラスとオンラインで交流しながら知的障害について学んだクラスもありました。２年生は、「人権の歴史Ⅰ」というテーマで、日本の中世から江戸時代にかけての人権獲得の歴史について学びました。３年生は、「就職差別と自らの関わり」というテーマで、「就職差別につながるおそれがある 14 項目」の内容と、面接時の対応方法について学びました。

生徒の感想を紹介します。

私はオンライン交流会を通して、改めて「人」としてみな美しいのだということを感じました。しかし、そんな中でも私が特に感動したことは、言葉を口から出しにくいにもかかわらず、とってもすてきな声で上手にお話をしてくださったことです。きっと何度も何度も練習したのだろうなと話し声で分かりました。

今は、自分とは違う能力や自分が持っていないものを前にすると欲しかったりうらやましかったりするけど、昔は違い、自分たちと違うものを持つ人を「変わっている」などと思って差別してしまうのだと分かりました。私も新しい何かを前にしたら、偏見などで判断せずに知識を深めて判断したいです。